

## ● ガソリンを取扱う時の注意点

- **火気のある場所では使用・保管をしない**：ガソリンは非常に揮発しやすく近くに火気があると簡単に引火します。発電機などに給油する際は、機器を一度停止してから行ってください。
- **換気の良い場所に保管する**：ガソリンの蒸気は空気より重いため、低い位置に溜まります。ガソリンの蒸気が引火する濃度にならないよう換気を良くすることが重要です。
- **試験に合格した携行缶を使用する**：消防法令等の試験基準に合格した携行缶は、合格したことを示すマークが付されているので、購入する際のポイントとしてください。
- **冷暗所に保管する**：気温の高い場所では容器内の圧力が高まり、中身が噴き出す可能性があります危険です。



一般的なガソリン携行缶



マークデザイン

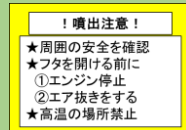
## ● ガソリンを入れた携行缶が温められてしまったら・・・

ガソリンを入れた容器が温まった場合、ふたを開ける

前に換気の良い火気のないところでエア抜きをしましょう。

携行缶の内部圧力が高い場合、右図のようにキャップ開放やエア抜きによりガソリンが噴き出すおそれがあり危険です。

涼しいところで常温に下がるまで十分な時間を置いて、圧力を下げましょう。



携行缶注意表示の例



温められてしまった携行缶が噴出する様子

## ● 灯油用ポリエチレン缶の注意点

### ● 5年を目安に交換する

灯油用ポリエチレン缶は紫外線などの影響を受けやすく、劣化が進みます。製造年月日が表示されていますので、確認しましょう。

### ● ガソリンを入れない！

ガソリンは、可燃性蒸気が多く発生するため、灯油用ポリエチレン缶のように気密の不十分な容器では漏れる危険性があります。また、灯油用ポリエチレン缶は、ガソリン自体に溜まる静電気を逃しにくく、移し替え等の際に静電気による火花が発生するおそれがあり危険です。

### ● 保管場所に注意

風雨にさらされたり、日光に当たったりすると、灯油用ポリエチレン缶の性能は低下します。保管する際は、なるべく暗く涼しい場所を選び、直射日光が当たらないように気を付けてください。



2002年10月製造の例



灯油用ポリエチレン缶

## ● ガソリン・灯油が燃えている場合の消火方法

ガソリン、灯油の火災は水で消すことはできません。ガソリンなどは「油」であるため、これらの火災で水をかけると、火が付いたガソリンが飛び散ったり、水より軽いガソリンなどが水の上に広がり火災が広がるおそれがあります。水での消火は絶対にやめましょう。

消火には、油火災に適應する消火器を使用します。右のような消火器に表示されたイラストにより確認しましょう。



## ● 保管する量により届出等が必要になります！

ガソリン、灯油を保管する時、東京都の火災予防条例で数量に応じて消防署への届出や消防法に基づく許可が必要になります。記載された数量未満を保管する場合であっても、他の危険物と一緒に同じ場所で保管する場合は届出等が必要な場合がありますので、事前に最寄りの消防署へ届け出てください。

	ガソリン	灯油
届出が必要な数量	40 L	200 L
許可が必要な数量	200 L	1,000 L

ガソリン、灯油の届出・許可が必要な数量